

第3卷【秋の章】

寺館和子

妖変

げんじ

ものがたり

源氏物語



妖変

源氏物語

第30卷【秋の章】

寺館和子

妖変
源氏物語
第3巻
【目次】

【朝顔】の巻

三

【雲居雁】の巻

六九

【玉鬘】の巻

一二五



その年 私にとって大事な人が
次々に亡くなった

太政大臣で葵^{あおい}の上^{うえ}の父……私の義父
故院の弟で 朝顔^{あさがお}の父の桃園式部卿^{もも そのの しき ぶ きょうのみや}宮

そして あの方…

幼い頃より ずっと慕いあげてきた
私の生涯で最も大事な方


私の心は
ポツカリと穴があいてしまった——



あ
さ
が
お

朝顔





男の瞳の向こうに
もうひとりの女を見た時
女の心に鬼が育つ。

原典のあらすじ【朝顔】

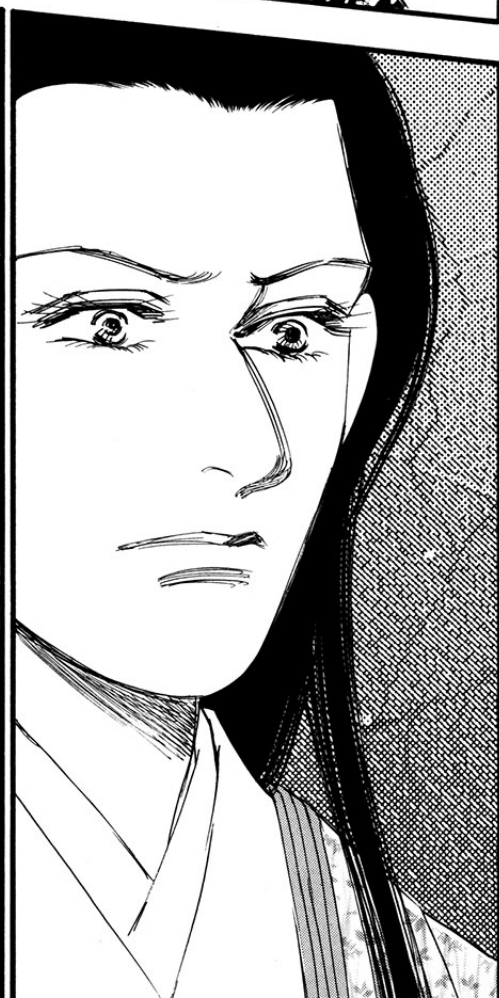
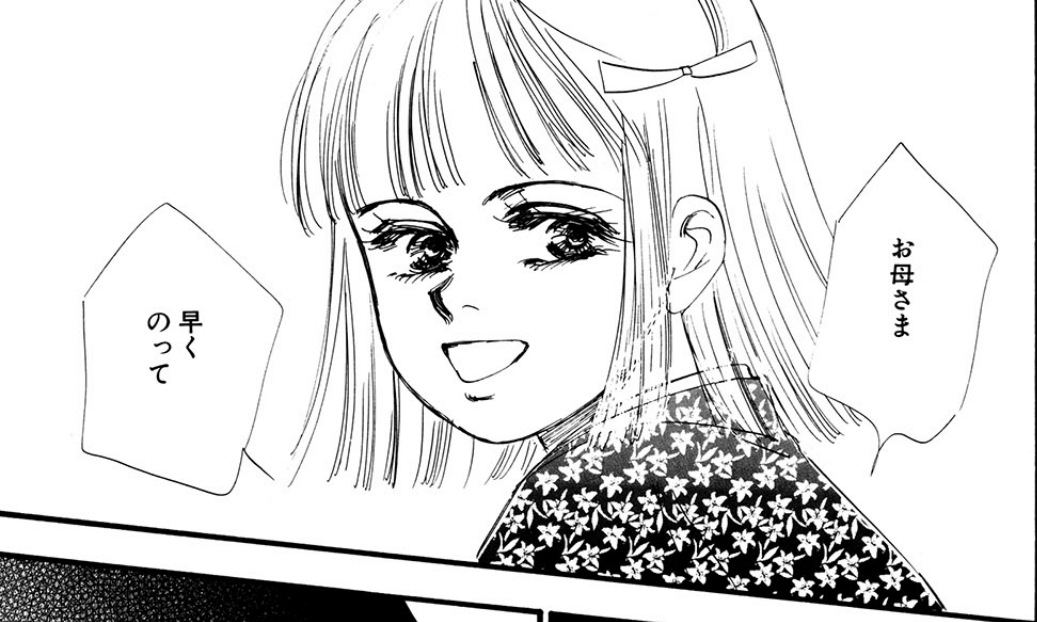
幼い冷泉帝には、推中納言（頭中將）の娘である弘徽殿女御が入内してしたが、源氏の君は帝の母である藤壺の宮と相談し、自らが後見をしている亡き六条御息所の娘を入内させる。そして、梅壺女御となった彼女と帝の後見役として次第に権力を握っていく。

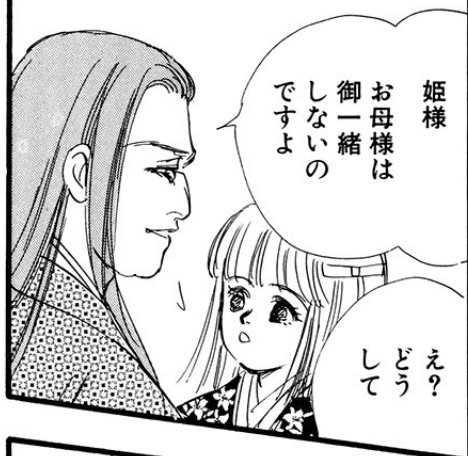
一方、明石の君との間にできた幼い姫を都に呼び寄せ、我が娘を将来の帝の中宮にすべく彼女の育児を紫の上に託す。

幼い姫をとり上げられた明石の君の嘆き、愛人との子供を託された紫の上の複雑な心境。権力を手にしていく源氏の君の周辺では、不穏な空気が漂い始めていた。

そんな折、最愛の藤壺の宮が亡くなった。源氏の君は、心の空洞を埋めるべく、若いころから執心していた朝顔の君のもとへ通い始めた。

朝顔の君は源氏の叔父である桃園式部卿宮の娘で、父親が他界したので賀茂の斎院を下がり桃園の邸で暮らしていた。源氏の君が若い頃から文のやりとりは続けていたが決して心を許したことはなく、それは今も変わらなかった。しかし、その噂は紫の上のもとに届いてしまう。







今ここで
別れたら…

今度はいつ
会えるのか…

二度ともう
会えないかも
しれない…

姫君



悲しいことは
いわないで

いつの日か
ふたりで成長した
ちい姫を見守る
ことになりますよ

きつと

……



何度も
いうようですが

紫の上は
優しい方です

とても子供
好きで

ちい姫も可愛がつ
てくれますよ

どうか
心を痛め
ないで

……

そうですよ

このまま
ここで育てても
姫には
気の毒です
それではいつたい
なんのために
京に上って来た
のか……

母上

さようなら 我が子

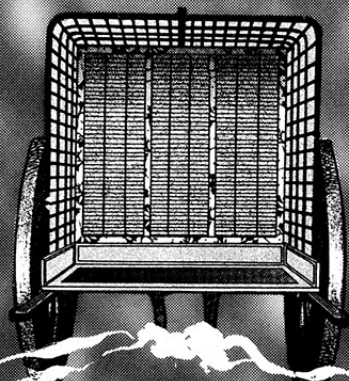
こうなることは
わかつていたはず

私の産んだ子は
源氏の君の御子でも
あるのだから……

ちい姫を一生
日陰者にして
おくつもりですか

源^{げん}氏の君に
預けること
それが姫のために
一番いいこと
なのですよ

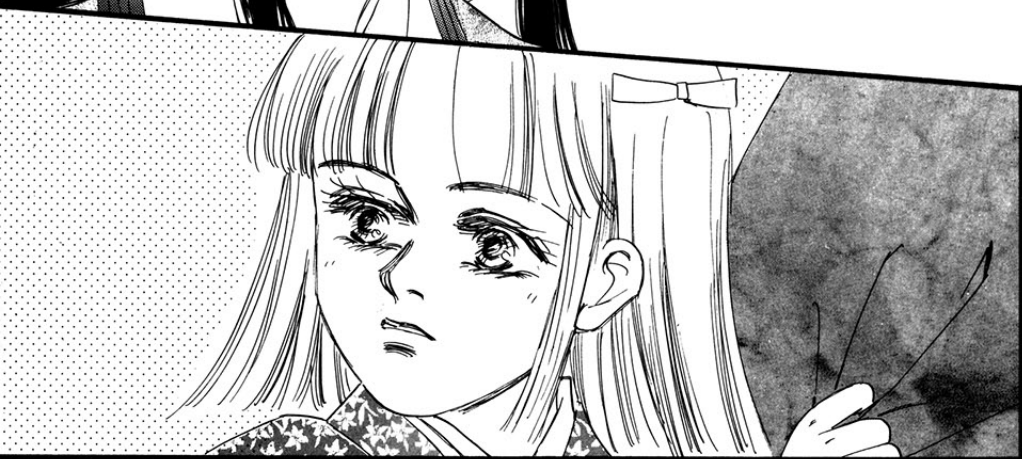
……
わかりました



ただ今は

あなたの幸せを
祈るばかり…

まア
かわいら
しい



こちらへ
いらっしやい

お菓子に
雛人形に

なんでも
あるわよ

お母さまは？

キョロ

キョロ



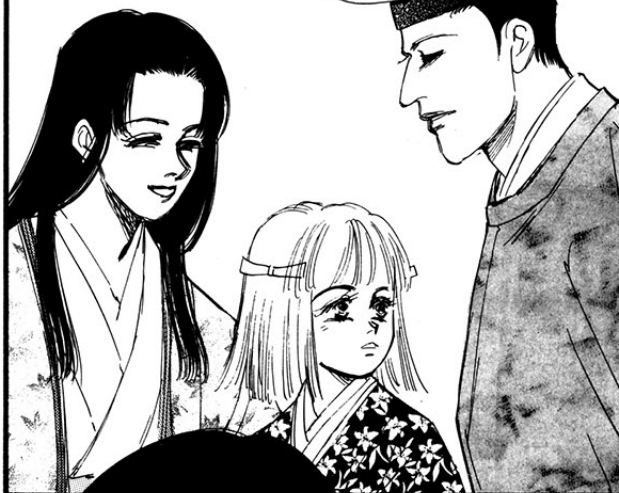


お母さまっ。

……

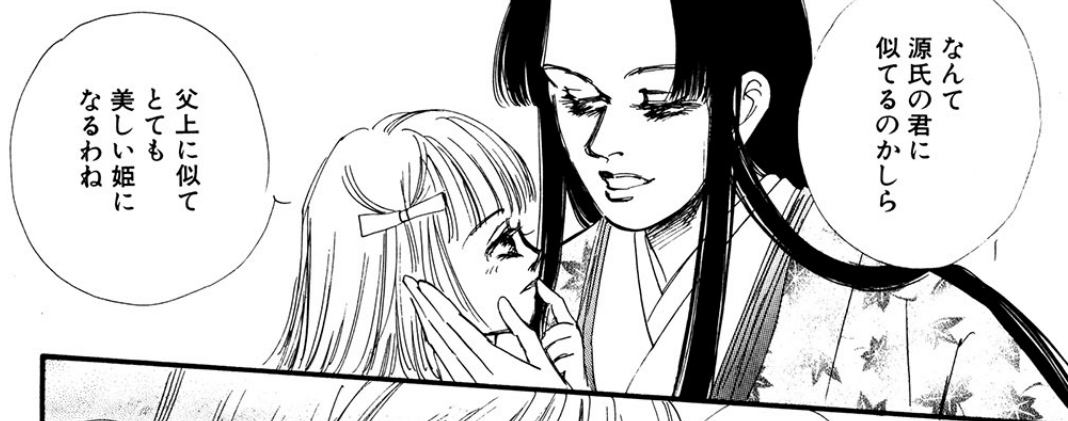
そうよ
私がこれから
あなたのお
母様よ

いったらう
ちい姫
ここには
新しいお母様
がいるって



かわいい
姫君

抱かせて
ちょうだい



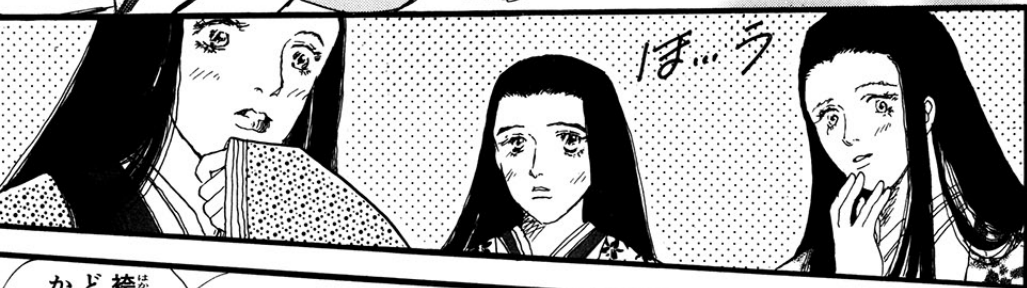
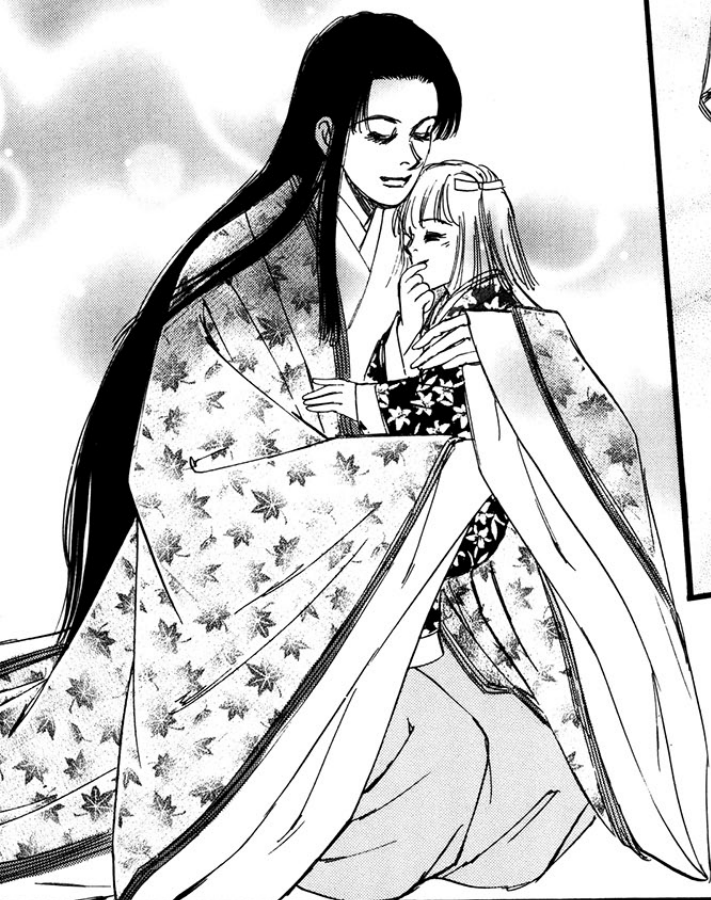
なんて
源氏の君に
似てるのかしら

父上に似て
とても
美しい姫に
なるわね



いい匂い

お母さま



袴着は
どんなふうになる
かしら

口惜しい
こと

紫の上に
御子がいたら
きつとこんな
感じだったん
でしょうね

ほ...う

本当の
親子
みたい

まるで
一枚の絵の
ようね

袴着の式も
並々ならぬ支度…

姫は悲しいやら
うれしいやらで…

そうか

ついに
この日が
来たか

仕方ないことだ
こうなることは
わかっていたはず
源氏の君に
嫁いだ時から

ちい姫の
将来を思えば
こうすることが…

ただ 姫君の
悲しみが…

どんなに
辛かろう
ことか…

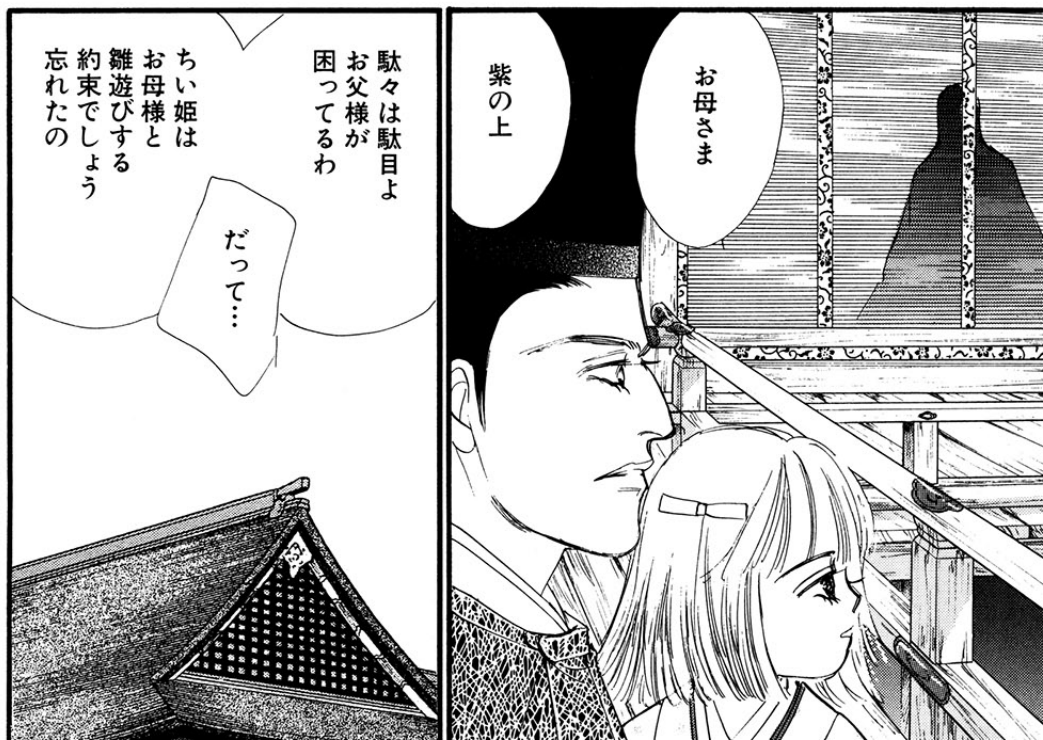




お父様は
これから
仏業に行くんだ
面白くない
ところだよ

ちい姫も
行く
行く
行くう

ちい
姫



お母さま

紫の上

駄々は駄目よ
お父様が
困ってるわ

ちい姫は
お母様と
雑遊びする
約束でしょう
忘れたの

だって…



紫の上…

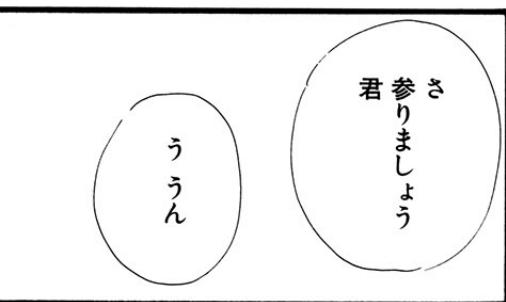
心の広い方
ですね
北の方様は



お母様の
大切にしている
雛を出して
あげるわ

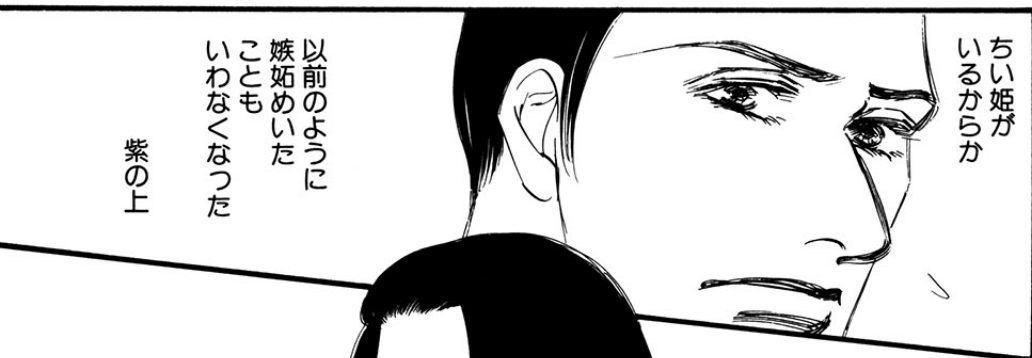
ほんとう

チヤヤ



さ
参りましょ
う君

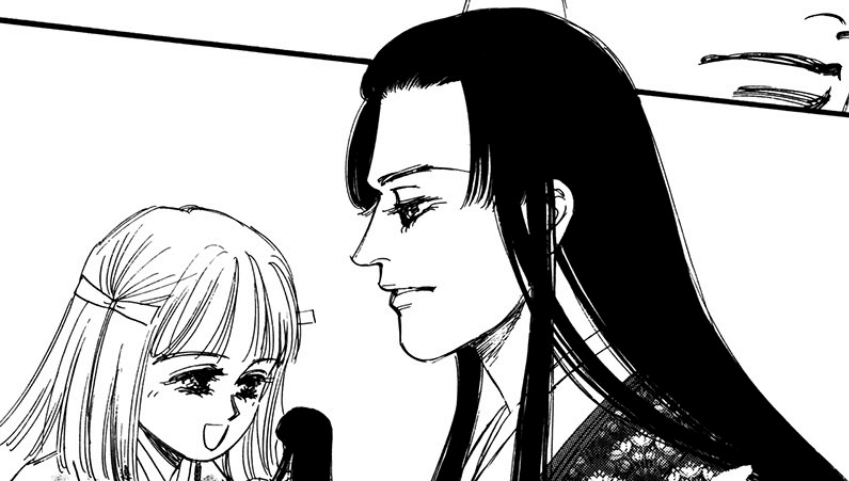
う
うん



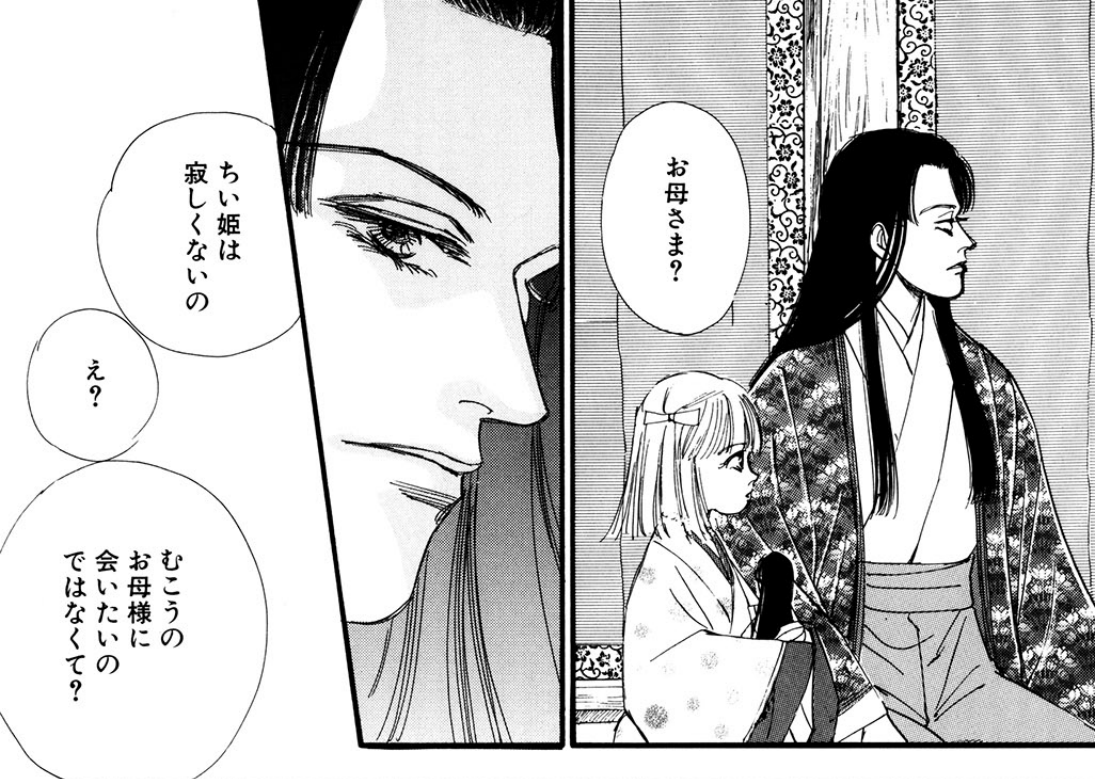
ちい
姫が
いる
から
か

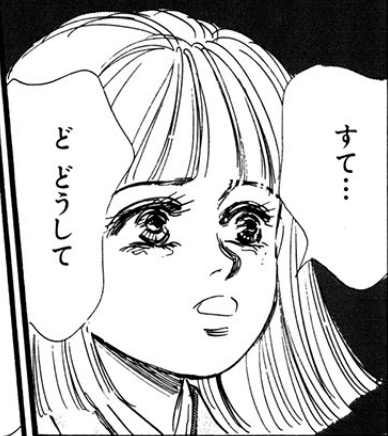
以前の
ように
嫉妬
めいた
こと
も
い
わ
な
く
な
っ
た

紫の上



本
当
に
ち
い
姫
が
好
き
な
の
だ
な





すて…

どうして



そ…んな…

う…そ



お母様は
お父様と
仲よくしたくて

ちい姫が一緒だと
邪魔だったの
今はお父様と
むこうの家で
ふたりだけ…

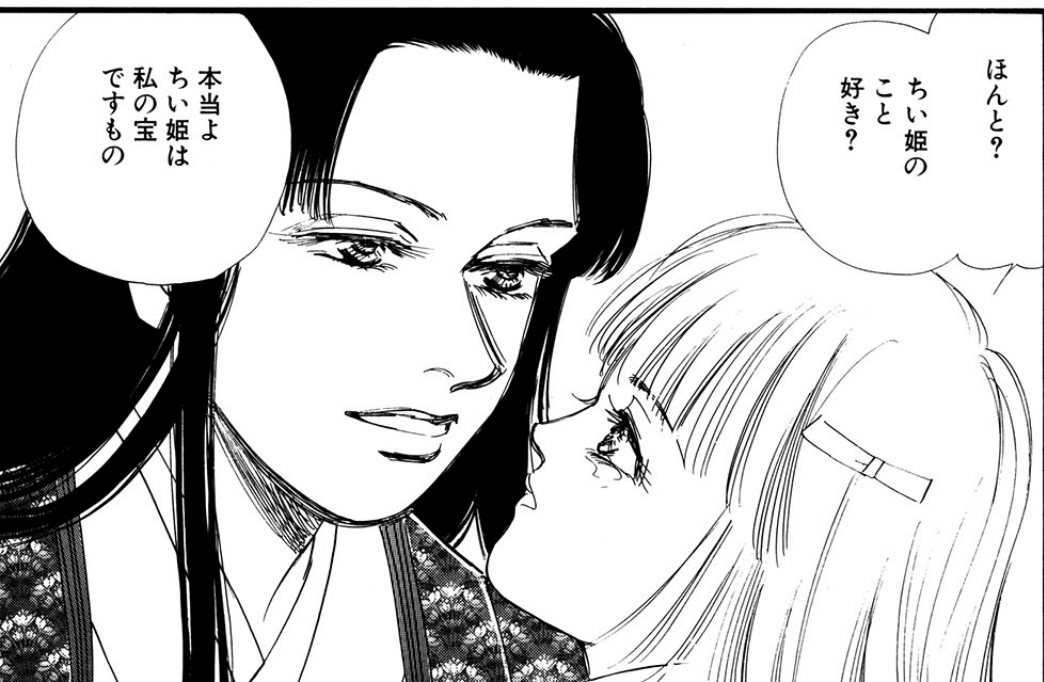


泣かないで
ちい姫

紫のお母様が
こうして
いるじゃない

私は決して
ちい姫を
捨てたりしないわ

えっ
えっ
えっ



ほんと？

ちい姫の
こと
好き？

本当よ
ちい姫は
私の宝
ですもの